2024 年 10 月 19 日（土）

馬堀上組遺跡発掘調査現地説明会

主催：新潟市文化財センター　協力：株式会社ノガミ

遺跡の概要

今年の発掘調査のようす

馬堀上組遺跡は西蒲区馬堀に所在する遺跡です。

圃場整備事業（経営体育成基盤整備事業馬堀地区）に伴う試掘調査で令和元年に新発見され、追加調査でも遺構が確認されたため、今年度本発掘調査を行うことになりました。

出土した遺物から中世、特に鎌倉時代ごろの遺跡と考えられ、圃場整備事業の工事で失われる範囲、およそ 1250 ㎡ を 対象に調査を行っています。

西蒲区は中世に城館が複数築かれた地域です。岩室の天神山城や和納館など古文書にも記録があります。こうした館は武士の生活する屋敷としてはもちろん、戦の場合には砦としての役割も果たしました。西蒲区周辺でも南北朝時代から戦国時代にかけて、たびたび戦があったことが記録されています。

馬堀上組遺跡で見つかったのは、そうした戦乱の時代の村の跡だと考えられます。限られた調査範囲では村の全貌は分かりませんが、古文書に残る勇ましい武士たちの活躍ではなく、当時の一般的な村に住む「普通」の人々の暮らしに思いを馳せて頂ければと思います。

馬堀上組遺跡の位置（1/100,000）

遺跡範囲と本調査範囲（1/4,000）

周辺の遺跡と歴史的環境

馬堀上組遺跡のある西蒲区の旧巻町周辺には、縄文時代から江戸時代まで多数の遺跡が発見されています。縄文時代から古墳時代までは角田山周辺に遺跡が多く、古代以降に平野部の遺跡が増加します。

馬堀上組遺跡で人が暮らしていた中世には、西蒲区では天神山城や和納館跡など、文献にも登場する城館が多数存在します。また、寺裏遺跡や茶院 A 遺跡で村の跡が見つかっています。

馬堀上組遺跡に隣接する馬堀集落は、上杉謙信の時代に三条城の所領を記録した古文書に「間堀」と書かれていることから、この時期には村が営まれていました。

江戸時代に馬堀村は長岡藩領となったのち、三根山藩が成立するときに三根山藩領となり、そのまま幕末まで続きます。

江戸時代には新田開発が一層すすみ、馬堀村でも桜林や白穀新田などの枝郷が成立します。その過程で馬堀用水などの排水路が整備される一方、用水の確保と水害対策を巡る村同士の対立も記録されています。

馬堀上組遺跡周辺の中世の主な城館・遺跡の位置
（1/200,000）

おわりに

馬堀上組遺跡の発掘調査では、鎌倉時代の遺構・遺物が確認されました。

遺跡の所在する馬堀集落は、戦国時代の古文書の記載が初出と考えられていますが、今回の調査から、この古文書よりも遡ること 100 年以上、鎌倉時代にはすでに村が営まれていたことが明らかになりました。

この馬堀上組遺跡については調査終了後、写真や図面などの記録類や出土品を整理したうえで、来年度に発掘調査報告書として刊行予定です。市内の図書館等で利用可能になりますので、市民の皆様にご利用いただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたりご協力いただきました、西蒲原土地改良区様、馬堀地区圃場整備実行委員会様、新潟県巻農業振興部様と地元の皆さまに御礼申し上げます。

新潟市文化財センターでは発掘調査で出土した遺物や、市内で使われていた民具を収蔵・展示しています。
勾玉作りや和同開珎づくりなどの体験（月替わり）もできますので、是非お越しください。

文化財センターの
ホームページはコチラ→

遺構（昔の構造物の跡）

馬堀上組遺跡では、中世の遺構は主に井戸と溝、ピット（小土坑や柱穴）が確認されています。

井戸は６基あり、そのうち SE20 と SE21 は炭が堆積しており、遺物も多数出土しました。

溝のうち、中世のものは南側調査区の SD158 のみです。

ピットは北側調査区の複数箇所でまとまって検出され、中には柱痕状の堆積が確認できるものもあることから、掘立柱建物の存在する可能性について検討している段階です。

このほか土坑が数基確認されたほか、近世以降の溝が多数確認されています。

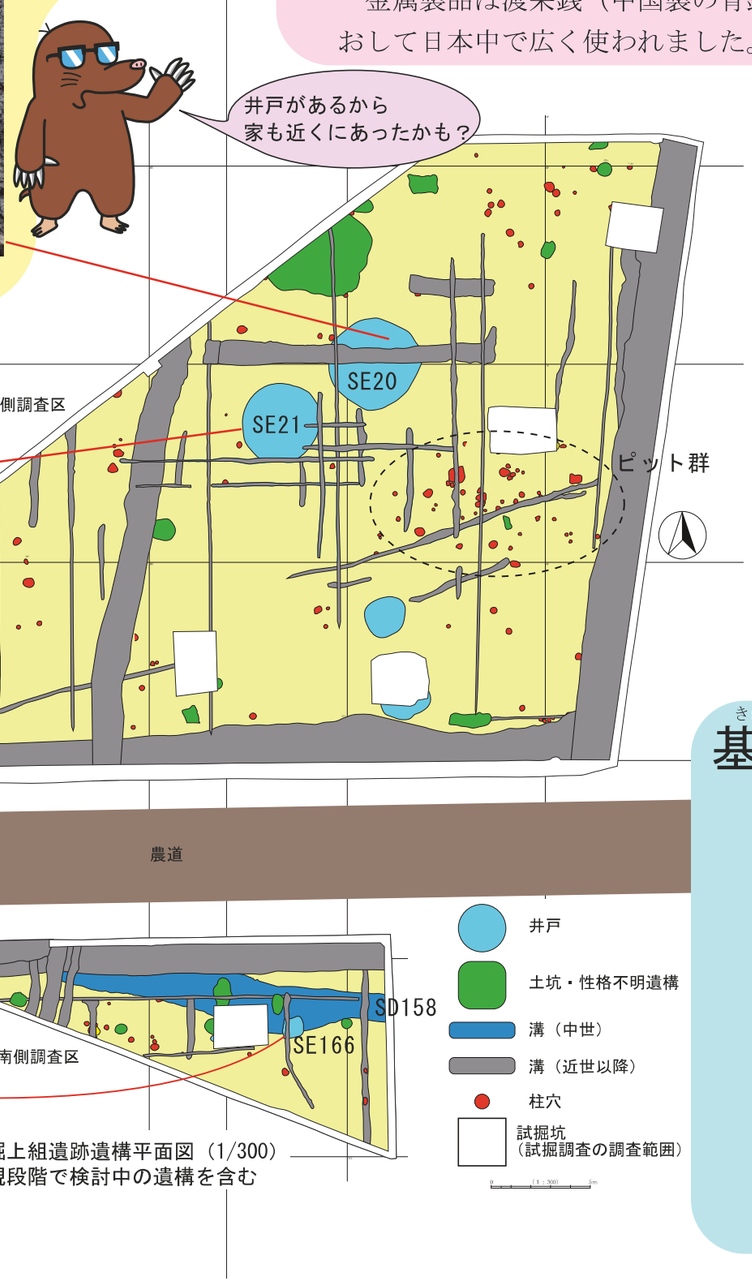
北側調査区　井戸（SE20）の遺物出土状況
炭が分厚く堆積した層の上で
遺物が多数出土しました

SE20 から漆器が出土したようす

北側調査区　井戸（SE21）の遺物出土状況
SE20 よりも炭の堆積が薄いです

南側調査区　井戸（SE166）断面
底から木簡が出土しました

SE166 から出土した木簡



馬堀上組遺跡遺構平面図（1/300）
※現段階で検討中の遺構を含む

遺物（出土した昔の道具など）

馬堀上組遺跡では、土器・石製品・木製品・金属製品が出土しています。

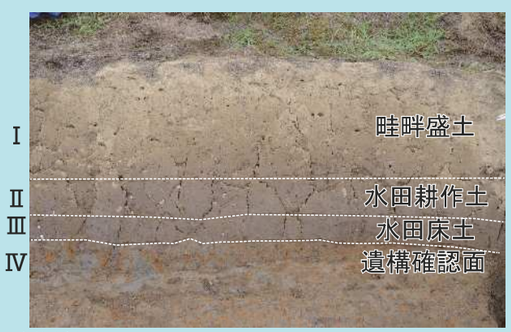
土器は珠洲焼（いまの石川県珠洲市で焼かれた陶器）や白磁・青磁（どちらも中国製の磁器で、当時の高級品）のほか、若干の土師器が出土しています。白磁は鎌倉時代に多く見られ、珠洲焼と青磁は中世をとおして流通した焼き物です。鎌倉時代よりも古い平安時代の須恵器も若干出土しました。

石製品は砥石が多数確認されています。

木製品は木簡（字の書かれた木の札）や漆器椀などの珍しいもののほか、用途不明の板材などが多量に出土しています。ほとんどは井戸から出土しました。

金属製品は渡来銭（中国製の青銅製のお金）が２枚出土しました。渡来銭も中世をとおして日本中で広く使われました。

基本層序（遺跡の地層）



遺構確認面（遺構が検出される面）はⅣ層です。
Ⅰ～Ⅲ層は近世以降の水田耕作に伴う土層のため、
Ⅳ層はすでにある程度削平されていました。